随筆 事実と意見・感想の見分け方

私の小学生時代は戦後の混乱期だったから、大勢の子供を抱えて必死に生きていた父や母の姿を私はいつも遠くから眺めていたように思う。

米を買いにどこの農家に行ったらいいのか、衣類をどこで手に入れようかと相談している様子、借家を転々とするたび細い体で※大八車を黙って引いていた父の姿、そんなものが父や母からの一番強烈な私へのメッセージである。いってみれば、人生をひたむきに生きるということを、私は無言のうちに教えられていたのかもしれない。

それでも、父の心に直接触れたような気になったことが一度だけある。

A【それはもう私が中学に通っている頃なのだが、ある日父の書斎の机に乗っていた一枚の紙片を見つけた。そこには父独特の右上がりの字で、

子等いねて雨音近きこたつかな

という俳句が書かれていた。】

B【私はそれまで父が俳句を作ることなど知らなかったから、その一枚の紙が父の日記のように思えて、父の心の中を覗いてしまったような、バツの悪さを感じた。が、そうしたうしろめたさと同時に父の子供に対する思いを発見したことに興奮した。】

おそらく父は、私たちが寝静まったあと、部屋の隅の炬燵で一人何か下調べをしていたのだろう。その時ふと雨の音を聞いて思い浮べた句を何気なく書き留めていたにちがいない。

「子等いねて」ということばの中に、普段あまり感情をみせない父の、子供に対する生な情愛が感じられて、そのことばが私の心の中で温かく溶けていくようであった。

（森本毅郎『幸せのものさし』講談社 所収「日記」による）

※大八車＝大きな荷車の一種。

例題

Aと**B**の箇所は、事実と、意見・感想のどちらが中心に描かれているか。事実なら**ア**、意見・感想なら**イ**でそれぞれ答えなさい。

A〔　　〕 **B**〔　　〕

事実と意見・感想の区別

筆者の体験・見聞・感想などを、筆に任せて自由な形式で書いた文章を**随筆**（ずいひつ）という。随筆には、体験などを文学的に描いたもの、筆者の見方・考え方を説明的に述べたものなどさまざまな形式がある。

	話題	内容
文学的随筆	季節・自然・旅・日常・家族　など	体験や、それに対する感想・思いなど。
説明的随筆	言語・社会・科学・読書・生き方　など	ものの見方や筆者の考えなど。

随筆は、次の点に注意して読み進めるとよい。

①**話題**を捉（とら）える。
題や、繰（く）り返し使われる語句に注目する。

②**事実**と**意見**・**感想**を区別する。
・事実……………筆者の体験や見聞など。
・意見・感想…経験や見聞に対する筆者の思い・考え。
※意見・感想を表す文末表現
（例）…と思う。…と感じる。…だろう。…べきだ。

③**主題**（筆者が特に伝えたい内容）を捉える。
※意見・感想の部分に描かれていることが多い。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線部「米を買いに……父の姿」とあるが、このような父と母の様子は、小学生時代の筆者にはどのような姿に感じられたのか。（　）に入る言葉を、本文中から十一字で書きぬきなさい。

（　　）姿。

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 大勢の子供を抱えて必死に生きる父の姿を見たことは、父の心に直接触れたと感じる出来事だった。

イ 父の俳句を見た筆者は、父の心の中を覗いてしまったかのようできまりが悪く感じた。

ウ 筆者の父はあまり感情をみせない人物だったので、強烈なメッセージのこもった俳句に筆者は困惑（こんわく）した。

［　　］